

審判(主審・チェアアンパイア・CU) ハンディマニュアル

1. 試合直前

コート上で

- ・ネットの高さ(91.4cm)、テンションのチェック、シングルスの場合はシングルススティックを立てる。
- ・コートのコンディション(ライン出し等)のチェック。
- ・試合のコールから(前の試合終了後)10分経ってもプレイヤーが現れない時は、速やかにロービングアンパイアに連絡する。

プレマッチミーティング(出来るだけ手短かに、必要事項を伝える)

- ・プレイヤーをセンターストラップ付近に集合させる。
- ・プレイヤーの名前を確認し、服装違反(Tシャツ、ロゴ違反等)が無いかチェック。
- ・プレイヤーに試合方法など試合に関する情報を伝える。
- ・トスの勝者にサーブ・レシーブ・エンドの選択をさせる。
- ・副審に、どちらのプレイヤーがサービスするかをハンドシグナルで合図する。
- ・プレイヤーにボールを渡し、審判台に上がる。

2. 試合中

- ・ポイントが決まった時、直ちに、観客に聞こえる様な大きな声で、はっきりと、スコアをアナウンスし、ポイントルーザーを見てからスコアカードに記入。(スコアカードに記入しながら下を向いたままアナウンスをしない)
- ・サービスレット、ネットタッチ、その他のファウルショットをコール。
- ・フットフォルトもコールする。
- ・隣のコートなどからボールがインプレー中に邪魔な位置に転がってきた場合、直ちにレット(ウエイトブリーズ)をコールし、ファーストサービスからやり直させる。
- ・副審の「明らかな」ミスジャッジは「直ちに」オーバールールをする。
- ・クレーコートの場合、すべてのボールマークに関して責任を持つ。正しいボールマークの確認で副審の助けを借りることは出来るが、そのマークの判定はチェアアンパイアが行わなければいけない。
- ・必要があれば、LUとのコミュニケーションを行う。(エンドチェンジの時、オーバールールの時)

3 . 技術上の注意事項

- ・頭を上げる。
- ・ボールから目を離さない。
- ・サーバーがサービスする直前に、レシーバーが準備しているかどうかチェック。
- ・コート状況や侵入物等に気を配る。
- ・「アウト」「フォルト」のコールは、「アウッ!」「フォッ!」と、語頭にアクセントをおく。
- ・コールやアナウンスは観客に聞こえるくらい大きな声ではっきりと、しかも威圧的にならない様に注意する。

4 . 試合後

- ・勝者名とスコア(タイブレークスコアも)記入し、勝者からサインをもらう。

審判用 アナウンス集

1 . 試合開始前のアナウンス

- ・「One set tie-break match A to serve, play!」
試合開始直前にアナウンスします。個人戦の場合は名前を、団体戦の場合は学校名をアナウンスします。

2 . スコアアナウンスとゲーム終了時のアナウンス

- ・「Advantage A」
個人戦の場合は名前を、団体戦の場合は学校名をアナウンスします。
- ・「Game A, first game.」
プレイヤーAが第1ゲームを取った時。
- ・「Game A, A leads, 3-2」
第5ゲームをAが取り、Aが3 - 2でリードしている時。
- ・「Game B, 6 all, tie-break, A to serve.」
Bがゲームを取ってタイブレークに入った時に、最初のゲームのサーバーを紹介します。
- ・「1-0(One-zero), A」「2 all」「4-2, B」
タイブレーク中のスコアは、サーバーからではなく、リードしているプレイヤーのスコアからアナウンスし、その名を最後にアナウンスします。ダブルスの時には二人の名前を言います。
タイブレークの場合、0は「love」ではなく「zero」です。
- ・「Game and match A 6-4」
Aが6 - 4で試合に勝った時。
- ・「Game and first set, A 6-4」「Second set」
3セットマッチでAが第1セットを取って、第2セットに入る時。
- ・「Game and match A, 2 sets to 1, 6-4, 4-6, 7-5」
3セットマッチの最終セットをAが取り勝った時。

3. 審判員のコール

- ・「Fault」

ダブルフォルトというコールはありません。単に「フォルト」とコールして下さい。

ネットにかかった（ネットを超えない）ボールは「フォルト」とはコールしません。

- ・「Foot fault」

サービスが終了した瞬間に行います。インパクト前に「フットフォルト」とコールしたら、審判員の妨害（オフィシャル・ヒンドランス）として、セカンドサーブの場合であれば、ファーストサーブをサーバーに与えなければいけません。

- ・「Let」

プレー開始前に、隣のコートからボールの侵入など、何らかの事情でプレーを止める時。

サービスレットやインプレー中にプレーを妨害する事実が生じた時。

- ・「Through」

ボールがネットのほころびやネットポストとネットの間隙間を通り抜けた時。

- ・「Out」

ノーバウンドでフェンスや審判台に触れた時、誰にでも分かる様なアウトボールでも「アウト」とコールします。どのような場合でも着地する前に「アウト」とコールしてはいけません。

- ・「Not up」

ボールをツーバウンド以上で返球した時。ワンバウンドで打ったか、ツーバウンドで打ったか紛らわしい時にコールします。

- ・「Foul shot」

故意にダブルヒットしたり、オーバーネットなどルールに反してボールを打った時。

- ・「Touch」

ネットタッチやインプレー中のボールに身体や持ち物が触れた時。

- ・「Hindrance」

一方のプレーヤーが他方のプレーヤーを妨害した時。または審判員や観客などがプレーヤーの打球を妨害した時。

- ・「Correction! (the ball was good.)」

フォルトまたはアウトのコールを誤りと判断した時は、直ちに「コレクション」とコールして訂正します。グッドボールをオーバールールする場合には、誰もコールしていませんから、単に「アウト」または「フォルト」とコールすれば良いのです。

副審用 ハンディマニュアル

1. 試合前

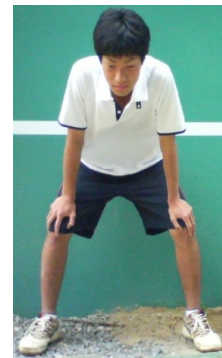
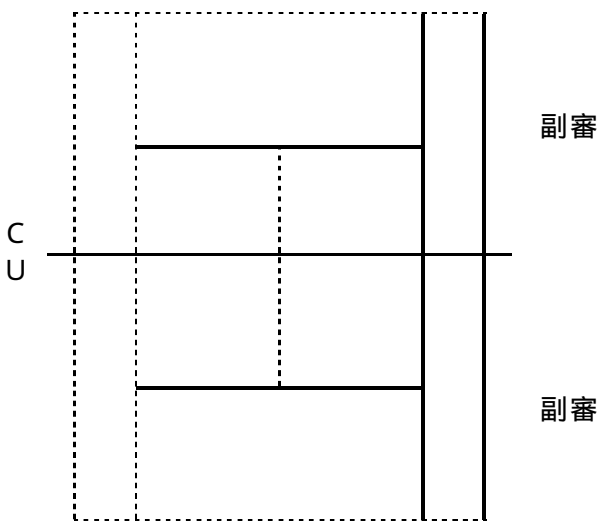
- ・練習中にボールを追って、目を慣らしておく。
- ・ボールパーソンではないのでむやみにボールを拾いに行かなくても良い。
- ・CUのアナウンスでサービスラインの位置に移動する。

2. 試合中

- ・「アウト」「フォルト」のコールは、「アウッ!」「フォッ!」と、語頭にアクセントをおき、一呼吸おいてからハンドシグナルを出す。
- ・ハンドシグナルを出す時は、CUとアイコンタクト。
- ・セーフシグナルは、エースの時は大きく、ラリーが続いている時は小さく控え目に出す。
- ・判定をCUにオーバールールされたら、ハンドシグナルを直ちに解除し、それに従う。
(プレイヤーから判定にコメントを求められてもCUに従うことを示す)
- ・グッドボールを間違えて「アウト」とコールした時は、直ちに「コレクション」とコールし、CUに向かって同じ手を垂直に上げ、続いてセーフシグナルを出す。
- ・アウトボールに対してセーフシグナルを出した時には、直ちに「アウト」とコールし、アウトのハンドシグナルを出す。
- ・プレイヤーに遮られ、ボールの落下地点が見えなかった時には、両手で目の下を覆ってCUに知らせる。

3. 副審の責任ライン

- ・実線が副審の責任ラインです。



レディポジション



グッド



アウトまたはフォルト



アンサイト